

## 式辞

穏やかな春の陽気に包まれ、すべてのものが躍動の気に満ちたこのよき日、大阪府教育庁ご代表様、大阪府議会議員、PTAご代表様をはじめ、多くの保護者の皆様方のご列席のもと、平成二十九年度大阪府立春日丘高等学校入学式を挙行できますことは、この上ない喜びでございます。高いところからではございますが、厚く御礼を申し上げます。

保護者の皆様方におかれましては、厳しい難関を乗り越えて大きく成長されたお子様の姿が頼もしく感じられているのではないのでしょうか。まことにおめでとうでございます。我々教職員一同、全力でお子様の成長のためにより充実した教育環境の構築に尽力していくことをお約束します。

ただ今入学を許可しました三二一名の新入生の皆さん、入学おめでとうでございます。教職員一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。

本校は、創立以来「自主・自律・自由」の精神を育てることを伝統として百年を超える歴史を刻んでまいりました。皆さんは、この歴史ある春日丘高校の新入生として、今まさに新たな一步を踏み出しました。今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、夢と希望の実現に向け、楽しく充実した感動ある高校生活を送って下さい。

最近、AI（人工知能）についての話題が多く取り上げられています。AIに多くの仕事を奪われる時代がやってくるとも言われています。しかし、「東ロボくん」プロジェクトを通して、AIに足りないのは「読解力」だと言われています。そこで、今日は新入生の皆さんに一冊の本を紹介したいと思います。

アメリカでベストセラーとなったアンジェラ・リー・ダックワースさんの「やり抜く力(グリット)」という書籍です。日本語版も出版されています。この本は、どんな分野であっても、長い目で見た人生の成功には才能以上に必要なものがある。それが「グリット」であるということを論じています。近年、この「やり抜く力」は「レジリエンス(折れない心)」と並んで、教育界はもちろんスポーツやビジネスなどの分野でも非常に強い関心を集めています。著者のアンジェラさんは中国系の移民二世、二児の母でもある心理学者です。この研究で天才賞と称されるアメリカマッカーサー賞を受賞されています。様々な分野の第一人者たちへのインタビューと著名な研究者たちと交わした議論や実験を積み重ねることで「やり抜く力」の構造を論理的に明かしているのです。とりわけ注目されているのは、「やり抜く力」は万人に内在していると、それを育むための4つの要素を本書で示していることです。

第1の要素は、対象への「興味」を積極的に掘り下げていく姿勢。

第2は、自分のスキルを上回る目標を設定してはクリアする「練習」を習慣化すること。

第3は、自分の取り組んでいることが、利己的ではなく利他的な「目的」とつながっていることを意識すること。

第4は、どのような状況でも楽観主義に支えられた「希望」を抱くこと。

加えて、人々のために何かを成し遂げる模範の人生に出会うことの大切さも指摘されています。「やり抜く力(グリット)」は単に成功するためだけではなく、人生というマラソンを走り抜く、すべての人に必要なものであるということなのです。興味を持った人は是非読んでみてください。

灘中学・高校の和田孫博（わだ まごひろ）校長は、A I時代に求められる力について、課題にいち早く気づき、普遍的知識や技能を活用し、各自が得意な部分を持ち寄って、力を合わせて解決法を編み出すことが必要であると述べています。皆さんも、自ら課題を探して解決するという姿勢を身につけるとともに、自分の意見をしっかり伝えることに力を入れていってほしいことを期待して、私の式辞とします。

平成二十九年四月六日

大阪府立春日丘高等学校長 福留 明富